

宮城の 頼れる弁護士

ないとう よしひと
内藤 喜仁

(内藤法律事務所)



経営者としての気持ちは同じ
コミュニケーションで問題にあたります

―多く手がけられている分野は
どういった分野でしょうか？

弁護士になった当初は債務整理のご相談が多かったので自然と受任は多かったです。そのあとは離婚や相続などの家事事件。現在多いのは交通事故の事件です。

自動車保険の特約の中で「弁護士費用特約」が普及したこともあって、費用のご心配なく依頼いただけることも増えてきました。最近では中小企業の経営者の方々のお付き合いも多く、会社を守るという立場での債権回収などの依頼もいただいています。自分も経営者ですから、悩みを抱えながら経営をされている経営者の方々の気持ちについて、わかることもあると思います。会社を守る立場でのお困りごとでもぜひご相談ください。

―これまでのお仕事で印象に残っていることは？

先輩弁護士と一緒に関わった裁判員裁判はとても勉強になりました。自分なりの正解を追求するのがこの仕事で、自由と同時に責任が重い仕事なのですが、先輩

弁護士の仕事ぶりで学ぶことは多く、さらに学び続ける気持ちが新たにになりました。

―プライベートでのご趣味などを聞かせてください。

仕事との切り替えを上手に行うのが大事だないつも思っています。カラオケに行ったりバンドでドラムを担当したり。一人で仕事をすることが多いので、仲間と過ごす時間は楽しいですね。あとは妻に教えられたスキューバ。この間も沖繩にある渡嘉敷島の海に潜ってきました。きれいな海を見ながら、ゆったりした時間を過ごす心が穏やかになりますね。

―最後に、りらく読者へのメッセージをお願いします。

月並みかもしれませんが、弁護士って敷居が高いようですが、専門が法律であるだけで他のサービス業と変わりません。私たちには守秘義務がありますから、身内より話しやすいかもしれませぬ。お困りのことがあればどうぞ相談いただけたらと思います。